

様々な場面での活用が期待できるICT

令和3年中教審の答申では、目指すべき新しい時代の学校教育の姿として「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現」が提言されました。学習指導要領では学校教育を通じて児童生徒が「何ができるようになるか」という各教科等において育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理しています。未来の社会を見据え、児童生徒の資質・能力を育成するに当たっては、このような学習指導要領の趣旨を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直し、これまで培われてきた工夫とともに、ICTの新たな可能性を指導に生かすことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが重要です。

子供たちに育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

✔ これらの資質・能力を育むためには、学習指導要領の着実な実施が重要

✔ これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、ICTの活用が必要不可欠



- ▶ 学校教育の様々な課題を解決し、教育の質向上につなげる
- ▶ PDCAサイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行う
- ▶ ICTを活用すること自体が目的化してしまわないよう留意する



～1人1台端末の活用の幅を広げる実践例～

授

日常生活における営みをICTを通じて行うことが当たり前となっている中では、児童生徒にはICTを受け身で捉えるのではなく、手段として積極的に活用していくことが求められます。児童生徒自身がICTを「文房具」として自由な発想で活用できるよう、今までの授業実践の中で、ICTを活用する場面を意図的に設けていくことが大切です。

例：ICT活用促進プロジェクト指定校の取組から



〈教師の役割〉
子供一人一人の学びを
最大限に引き出す
子供の主体的な学びを支援



撮影・記録
課題を見付け
改善



思考の可視化
繰り返し
試行錯誤



考えを深める学習
他者の考えと比較
再整理・再構成



協働での意見整理
役割分担
同時編集

業

家庭学習

これまでの家庭学習も1人1台端末により大きく変わり、端末を通して課題が出されたり、成果物を提出したりすることもできます。特に、工作や、スポーツなど、紙の上では示しにくい成果物を画像や動画で残せるので、自主学習の幅が広がります。

例：コロナ禍で制限がある活動等について、宿題を端末を通じて提出



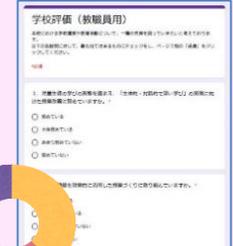
課題の受信

業務改善

アンケート調査の作成・集計・分析については、Googleフォーム等のアンケートフォームを活用しながら、その迅速化・省力化を図り、業務改善をしている学校が増えています。アンケート用紙の印刷、回収、集計作業といったことが、端末を活用することで、アンケートの配信から集計までの作業を自動で行うことができ、紙のアンケートに費やしていた作業時間や印刷のコストを削減することもできます。

例：学校評価アンケート、生活アンケート

※児童生徒が委員会等で活用している学校もあります。



学校評価